

表1 評価基準

	評価項目	評価基準	評価のポイント	配点	
客観評価	施工実績	過去10年以内に国又は地方公共団体等が発注した工事において、遊具設備設置工事（業務）を元請（共同企業体として受注した場合には、出資比率が50％以上に限る。）又は下請けし、完工した実績を有する者であること。	評価A(配点×1.00)：4件以上 評価B(配点×0.75)：3件 評価C(配点×0.50)：2件 評価D(配点×0.25)：1件 評価E(配点×0.00)：0件	10	10
	地元企業活用計画	様式第9号に定める条件を満たしているか。	評価A(配点×1.00)：80％以上 評価B(配点×0.75)：50％以上～80％未満 評価C(配点×0.50)：30％以上～50％未満 評価D(配点×0.25)：0％超～30％未満 評価E(配点×0.00)：0％	10	10
主観評価	実施体制・取組方針	設計、造成、遊具、施工、維持管理等について、適切な人員・技術者を配置しているか。	業務内容に応じた専門技術者・有資格者等が適切に配置され、設計から施工、完成後の維持管理まで責任を持って対応できる体制となっているか。	10	5
		発注者との協議・調整を円滑に行い、事業を確実に進められる体制となっているか。	発注者との協議・報告・連絡体制が明確であり、課題発生時にも迅速に対応できる体制となっているか。 工程・品質・安全等を適切に管理し、期限内に確実に事業を実施できる計画となっているか。		5
	全体計画・コンセプト	本広場の立地、周辺環境、利用者特性等を的確に把握し、それらを活かした具体性・実現性・独創性のあるコンセプトとなっているか。	公園の立地条件、周辺施設、景観、利用者層等を十分に把握した上で、この場所ならではの明確なコンセプトが設定されているか。そのコンセプトが遊具や広場全体の計画に具体的に反映されているか。	30	10
		遊具、広場、休憩スペース、園路等が適切に配置されているか。	遊具・休憩施設・園路・広場等の配置が利用者の動線を考慮したものとなっており、各施設が相互に機能する計画となっているか。空間を有効に活用し、過度な混雑やデッドスペースが生じない配置となっているか。		10
		子ども、保護者、高齢者、障害者等が安全かつ利用しやすい動線となっているか。	年齢や身体的特性にかかわらず利用しやすいユニバーサルデザインが考慮されているか。 ベビーカー、車いす等の利用も想定し、園路・出入口・遊具・休憩場所等へのアクセスが確保されているか。		10
	遊具計画	子どもが「遊びたい」と感じる魅力的・独創的な遊具となっているか。	子どもの興味・好奇心を引き出し、「また遊びたい」と感じられる魅力や独自性があるか。 地域のシンボルとなるようなデザイン・特徴を有しているか。	45	10
		走る、登る、滑る、くぐる、跳ぶ、バランスを取る等、多様な遊びができるか。	特定の遊びに偏らず、身体を動かす遊び、バランス感覚を養う遊び、探索・冒険的な遊び等、複数の遊び方ができる構成となっているか。		10
		子どもの発達段階に応じて挑戦でき、繰り返し利用したくなる構成となっているか。	簡単な遊びから高度な遊びまで段階的に挑戦でき、子どもの成長に応じて遊び方を変えられる構成となっているか。単一の遊びだけでなく、繰り返し利用しても飽きにくい工夫があるか。		10
		遊具同士の組み合わせや配置により、遊びの連続性・発展性が生まれる構成となっているか。	個々の遊具の魅力だけでなく、複数の遊具を組み合わせることで、子どもが次の遊びへ自然に移動したり、遊び方を発展させたりできる構成となっているか。		10
		参考資料②（アンケート結果）を踏まえた提案となっているか。	参考資料②（アンケート結果）を踏まえ、その意見・ニーズが遊具の提案内容に適切に反映されているか。		5
	安全性・インクルーシブ性	遊具の構造、安全領域、転落・衝突・挟み込み等への配慮が適切か。	遊具の構造や配置について、転落・衝突・挟み込み・巻き込み等のリスクを十分に考慮しているか。 遊具相互の安全領域が適切に確保され、利用者同士の接触・衝突を防止できる計画となっているか。	40	10
		日陰、休憩場所、遊具表面温度への配慮があるか。	日射や暑さへの対策として、日陰・休憩場所が適切に確保されているか。 夏季の遊具表面温度や地表面温度等にも配慮された素材・配置となっているか。		10
		年齢、性別、身体能力にかかわらず利用できる工夫があるか。	年齢や身体能力等の違いにかかわらず、多様な子どもが参加・利用できる遊びや設備が計画されているか。 特定の利用者だけを対象としないインクルーシブな工夫があるか。		10
		子どもの身体的・心理的な特性や発達段階等に応じて、遊び方や難易度を自分で選択できる工夫があるか。	子どもの年齢、身体能力、経験、気分や体調等に応じて、遊び方や難易度を自ら選択できるよう、複数の遊び方や難易度の異なるルート・機能等が設けられているか。また、無理なく自分のペースで遊びを楽しめる工夫があるか。		5
		音、光、触感、揺れ等の刺激に対する多様な感覚特性に配慮した遊びの環境が計画されているか。	音、光、触感、揺れ、回転等の刺激について、子どもによって感じ方や好みが異なることに配慮し、刺激の強さや種類を選択できる遊具・遊び場が計画されているか。また、刺激を避けたり、落ち着いて過ごしたりできる場所が確保されている		5
	広場造成・景観計画	地形、舗装、芝生等が遊具と一体的に計画されているか。	遊具だけを設置するのではなく、地形・舗装・芝生・植栽等が遊具と一体となった空間として計画されているか。遊びの幅を広げるとともに、景観にも配慮されているか。	15	5
		雨水排水、水たまり、ぬかるみ等への対策が適切か。	降雨時の排水計画が適切で、遊具周辺や主要動線に水たまり・ぬかるみ等が生じにくい対策が工夫されているか。 維持管理のしやすさも考慮されているか。		5
		周辺環境や既存施設（トイレ等）と調和したデザインとなっているか。	既存施設や周辺の景観・建築物等の調和が図られ、統一感のあるデザインとなっているか。 色彩・素材・形状等が周辺環境に適したものとなっているか。		5
	維持管理・ライフサイクル	長寿命化するよう耐久性のある材料を使用しているか。	屋外環境での使用を踏まえ、耐候性・耐久性・耐食性等に優れた材料・仕上げが採用されているか。 長期的な使用を想定した仕様となっているか。	25	10
		点検、修繕等が容易な構造となっているか。	定期点検や修繕がしやすく、老化・破損個所を確認しやすい構造となっているか。 点検・修繕に必要な作業や費用についても考慮されているか。		10
		将来的な部品交換・修繕等を考慮し、維持管理費を抑制する工夫があるか。	消耗部品等の交換が容易で、部品の入手性や交換方法にも配慮されているか。 初期費用だけでなく、修繕・更新等を含めたライフサイクルコストの低減につながる工夫があるか。		5
	設計・施工計画	設計から完成までの工程が現実的か。	設計から工事完了まで全体スケジュールは、市との協議期間などを考慮するなど、適切で実現性のある計画となっているか。	5	5
	独自提案	追加提案等、独自性のある提案があるか。	要求水準を満たすことに加え、利用者の利便性・安全性・魅力向上や維持管理費の低減等につながる、事業者独自の有効な提案があるか。	10	10
	小計			200	

表2 得点化基準(主観評価のみ採用)

評価	評価内容	点数
A	大変優れている（要求水準を十分に満たし、具体性・実現性が高く、特に優れた提案内容である）	配点×1.00
B	優れている（要求水準を満たしており、優れた提案内容である）	配点×0.75
C	良い（要求水準を概ね満たしている）	配点×0.50
D	あまり評価できない（要求水準を満たしている部分はあるが、内容が不十分または具体性に欠ける）	配点×0.25
E	評価できない（要求水準を満たしていない、または評価できる具体的な提案がない）	配点×0.00